

## ●個別注記表の記載例

重要な会計方針に係る事項に関する注記

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
製品、仕掛品……移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）  
原材料、貯蔵品……最終仕入原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法）

その価額を計算する方法です。

期末棚卸資産を売価で集計し、それに原価率を乗じて期末棚卸資産の価額を計算する方法です。

### ④ 売価還元法

・移動平均法：総平均法が期末に一括して平均単価を求めるのに対して、期中で商品を仕入れる度に平均単価を計算する方法

・総平均法：その棚卸資産に掛けられた原価の合計金額を総数量で割って総平均単価を算出し、これに期末に残っている個数を掛けて期末棚卸資産の価額を計算する方法

・移動平均法：総平均法が期末に一括して平均単価を求めるのに対して、期中で商品を仕入れる度に平均単価を計算する方法

### ⑤ 最終仕入原価法

棚卸資産を期末から最も近いときに取得した価額で期末棚卸資産の価額を計算する方法です。

### Q3 棚卸資産がいつまでも売れずに残っていたらどうする？

棚卸資産は取得原価をもって計上することが原則です。しかし、

物質的に劣化したり、流行期を過ぎるなど棚卸資産の収益性が低下したときは、取得原価を切り下げ正味売却価額をもって貸借対照表価額としなければなりません。

正味売却価額とは、売却市場における売価から、販売直接経費等の見積額を控除した金額をいいます。収益性低下の要因としては、  
⑦物質的な劣化、⑧市場での需給変化、⑨経済的な劣化（陳腐化）等が挙げられます。

棚卸資産の収益性低下による取得原価の切下げ額は、原則売上原価として処理しますが、棚卸資産の製造に関連し不可避である場合は製造原価として処理します。BB

## 確認テストを解いてみよう

### 問題1

棚卸資産の種類について述べた①～④のうち誤っているものを選んでください。

- ① 製品とは、製造業において自社で製造し、完成して販売できるものをいう
- ② 仕掛品とは、製造業において製造途中の未完成品をいう
- ③ 半製品とは、製造工程の途中で販売できる状態になったものをいう
- ④ 貯蔵品とは、小売・卸売業において他社から購入した、加工せずにそのまま販売できるものをいう

### 問題2

棚卸資産の評価方法について述べた①～④のうち、誤っているものを選んでください。

- ① 個別法とは、取得原価を個別に記録しておき価額を計算する方法である
- ② 先入先出法とは、期末に一括して平均単価を計算する方法である
- ③ 移動平均法とは、期中で商品を仕入れる度に平均単価を計算する方法である
- ④ 最終仕入原価法とは、棚卸資産を期末から最も近いときに取得した価額で計算する方法である

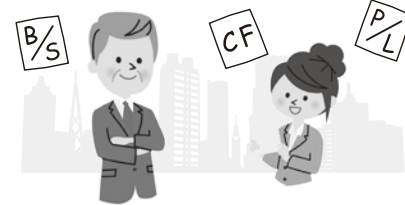
② - 乙 諸 ④ - 1 諸 最 増

# 基礎から身につく 財務の教室

第5回

今回のテーマ

## 棚卸資産の種類と評価方法



八木正宣●やぎ・まさのぶ  
税理士事務所SBL所長・税理士。  
会計事務所等での勤務を経て平成  
16年税理士事務所SBLを開設。  
企業支援と相続関連業務に強み。

今回は、資産の部に記載される「棚卸資産」について解説します。

### Q1 棚卸資産とはそもそもどんなもの？

会社が販売する目的で一時的に保有している商品・製品・原材料等の総称のことです。一般的に「在庫」と呼ばれます。棚卸資産は、正常営業循環基準により、資産の部の「流動資産」に属します。

棚卸資産は、いずれ販売されることにより、売掛金や受取手形等売掛債権を通じて回収され現預金となります。棚卸資産の種類別に説明すると次のようになります。  
・商品：小売・卸売業において他社から購入した、加工せずにそのまま販売できるもの  
・製品：製造業において自社で製造し、完成して販売できるもの  
仕掛品：製造業において製造途中の未完成品  
・原材料：製造業において製造するため仕入れたもの

・貯蔵品：消耗品や消耗工具、燃料等でまだ使っていない新品のもの

### ●製造業では種類が移行

製造業では棚卸資産の種類が移行していきます。まず、製品を構成する基礎となる原材料を製造工程に投入します。投入された原材料は、加工費が付加され仕掛品となり、最終製造工程を終えて完成すると製品となります。

なお、製造工程の途中で販売できる状態になったものを半製品の科目で分類することもあります。

### Q2 棚卸資産はどのように評価を行えばよいの？

通常の販売目的で保有する棚卸資産は、購入代価等に付随費用を加算した取得原価をもって貸借対照表に計上されます。その取得原価の計算方法ですが、「棚卸資産の評価に関する会計基準」では、個別法、先入先出法、平均原価法、売価還元法が定められています。

す。そのほか、法人税法で定められている最終仕入原価法があり、重要性が乏しい場合においてのみ適用が認められています。

### ●個別注記表に記載される

どの評価基準で計算するかは、会社が定めた評価方法によります。その採用された評価方法は図表のように「個別注記表」に記載されます。以下ではそれぞれの評価基準を簡単に解説します。

#### ① 個別法

棚卸資産の取得原価を個別に記録し期末棚卸資産の価額を計算する方法です。棚卸資産が高額で取引量が少ない場合に適している方法といえます。

#### ② 先入先出法

先に仕入れたものから売れると考えて期末棚卸資産の価額を計算する方法です。貸借対照表上の棚卸資産は、最近購入した物の割合が高いため時価に近くなります。

#### ③ 平均原価法

取得した棚卸資産の平均単価をもって期末棚卸資産の価額を計算